

一般社団法人 日本医療薬学会
地域薬学ケア専門薬剤師副領域(がん)
養成研修ガイドライン
(第1版)

2020. 04. 26

地域薬学ケア専門薬剤師運営委員会作成

注意：本ガイドラインは、現行のコアカリキュラム内容に相当するものとする。
本コアカリキュラムの各項目の詳細については、各研修施設の特性を考慮して決定
すること。

目次

1. 到達目標.....	4
2. 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）に必要な知識.....	5
2-1. がんの基礎と臨床に関する一般的知識.....	5
2-1-1. がんの発生、分化、増殖、転移、浸潤、薬剤耐性.....	5
2-1-2. がんの疫学、臨床所見、診断、合併症、予後、検診と予防.....	5
2-1-3. 組織病理学的分類と病期（ステージ）分類.....	5
2-1-4. 集学的治療（外科的治療、放射線治療、薬物療法）.....	5
2-1-5. 遺伝性腫瘍と家族性腫瘍.....	6
2-1-6. 国が定めるがん対策.....	6
2-2. がん種に関する一般的知識.....	6
2-2-1. 知識修得が必須ながん種に関する一般知識.....	6
2-2-2. 状況により修得が望ましいがん種に関する一般知識.....	7
2-3. がん薬物療法に関する基礎知識.....	7
2-3-1. 抗がん薬に対する薬学的知識.....	7
2-3-2. 主要ながんに対する標準治療レジメン.....	8
2-3-3. 支持療法の種類、根拠、方法.....	8
2-3-4. 注射用抗がん薬に関する基礎知識.....	9
2-3-5. 抗がん薬の取り扱いと曝露防止対策.....	9
2-3-6. スペシャルポピュレーションに対する薬物療法.....	10
2-3-7. 在宅医療におけるがん薬物療法.....	10
2-3-8. 特殊な管理が必要な薬剤.....	10
2-4. 抗がん薬及び、支持療法薬の副作用に関する知識.....	10
2-4-2. 上記副作用の支持療法、治療、処置.....	10
2-4-3. 上記副作用の日常生活における注意点、ケア、食事に関する注意、予防対策.....	11
2-4-4. 上記副作用の早期受診すべき症状.....	11
2-5. 緩和ケアについての知識.....	11
2-5-1. 緩和ケアの考え方.....	11
2-5-2. がん性疼痛の種類と評価.....	11
2-5-3. 使用する薬剤とその副作用.....	11
2-5-4. 在宅患者への緩和ケア.....	12
2-6. がん患者のケアに関する知識.....	12
2-6-1. 妊孕性の温存.....	12
2-6-2. メンタルケア.....	12
2-6-3. ストーマケア.....	12
2-6-4. アピアランスケア.....	12

2-6-5. 栄養管理・食事指導.....	13
2-6-6. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）.....	13
3. 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）に必要な技術.....	14
3-1. 経口抗がん薬の調剤.....	14
3-1-1. 管理.....	14
3-1-2. 調剤.....	14
3-1-3. 処方監査.....	14
3-1-4. 交付.....	14
3-1-5. 投与.....	15
3-2. 最新の医薬品情報や臨床情報・ガイドラインなどの調査、論文の読解.....	15
3-3. 患者説明.....	15
3-4. 多職種連携.....	16
3-5. がん又はがん化学療法に随伴する臨床症状に対する支持療法の推奨.....	16
3-6. がん性疼痛管理.....	16
4. 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）に必要な臨床経験.....	18
4-1. 薬学的知見に基づくがん薬物療法の指導に関する業務.....	18
4-1-1.患者情報の収集.....	18
4-1-2.患者に対する適切な服薬指導・薬剤情報提供の実践.....	18
4-1-3.副作用報告.....	18

1. 到達目標

地域薬学ケア専門薬剤師(がん)をめざす者(以下、研修者)は、地域薬学ケア専門薬剤師コアカリキュラムに基づいた研修に加え、本研修カリキュラムにしたがって、職務に必要ながん領域の薬物療法における高度な薬学知識・臨床知識・専門的技術を網羅的に修得し臨床経験を積むとともに、相応しい態度を身につけることを目標とする。

2. 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）に必要な知識

研修者は、下記項目にある知識を修得しなければならない。

2-1. がんの基礎と臨床に関する一般的知識

2-1-1. がんの発生、分化、増殖、転移、浸潤、薬剤耐性

1. がんの発生、分化、増殖、転移、浸潤、薬剤耐性の機序を説明できる。
2. 転移の発生しやすい臓器とその理由を説明できる。

2-1-2. がんの疫学、臨床所見、診断、合併症、予後、検診と予防

1. 各種がんの好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率、再発リスクを説明できる。
2. 各種がんの発症リスクファクターを挙げることができる。
3. 各種がんにおける特徴的な臨床所見を説明できる。
4. 各種がんの診断の概略を説明できる。
5. 各種がんの腫瘍マーカーの意義と判定基準を説明できる。
6. 各種がんの主な合併症や腫瘍随伴症候群を説明できる。
7. 治療関連死の主な原因とその対策を説明できる。
8. 各種がんにおける病期(ステージ)別予後を説明できる。
9. 一次予防(環境、生活習慣)を説明できる。
10. 二次予防(がん検診)の目的を説明できる。
11. がん検診における対策型と任意型を説明できる。
12. がん検診にて要精密検査となった場合の推奨されている検査方法を説明できる。

2-1-3. 組織病理学的分類と病期（ステージ）分類

1. TNM 分類には臨床分類と病理学的分類の2種類あることを理解し、それぞれの定義を説明できる。
2. 各種がんの病期(ステージ)分類を説明できる。

2-1-4. 集学的治療（外科的治療、放射線治療、薬物療法）

1. 各種がんの病期(ステージ)ごとの治療方針を説明できる。
2. 外科的治療の適応基準、手術方法の概略を説明できる。
3. 外科的治療に伴う合併症とその発症時期、対策を説明できる。
4. 放射線治療の適応基準、種類、方法、照射時期、治療期間を説明できる。
5. 放射線治療に伴う副作用とその発症時期、対策を説明できる。

6. 以下の薬物療法について、各種がんにおける位置付けと特徴を説明できる。

- (1) 殺細胞性化学療法薬
- (2) ホルモン剤
- (3) 分子標的薬
- (4) 免疫チェックポイント阻害薬

2-1-5. 遺伝性腫瘍と家族性腫瘍

1. 遺伝性腫瘍の特徴と病因を説明できる。
2. 遺伝性腫瘍症候群を挙げることができる。
3. 遺伝性腫瘍の遺伝パターンを説明できる。
4. 遺伝カウンセリングを説明できる。
5. 遺伝学的検査や診断方法を説明できる。

2-1-6. 国が定めるがん対策

1. がん対策基本法、がん対策推進基本計画を説明できる。
2. がん登録の目的を説明できる。
3. 国が指定しているがんおよび小児がんの拠点病院の役割を説明できる。
4. AYA世代のがん患者の定義および抱える問題を説明できる。

2-2. がん種に関する一般的知識

2-2-1. 知識修得が必須ながん種に関する一般知識

胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、造血器腫瘍

[疫学]

1. 好発年齢、男女比、罹患率、死亡率、5年生存率を説明できる。
2. リスクファクター、抑制因子を挙げられる。

[診断]

1. がんの発生部位と部位別の発生頻度および症状を説明できる。
2. 初期症状および自覚症状を挙げられる。
3. スクリーニング法、診断方法、検査と精度を説明できる。
4. それぞれのがんに特異的な腫瘍マーカーの検査意義と判定基準、限界を説明できる。
5. 治療に影響を与える因子とその検査法を説明できる。
6. TNM分類と病期(ステージ)を説明できる。

[治療]

1. 病期(ステージ)分類と予後、治療方針の関連性を説明できる。
2. 治療のアルゴリズムと推奨される代表的なレジメンを説明できる。

3. 治療に用いる薬剤の作用機序、適応、投与方法、副作用とその初期症状、対処法、支持療法を説明できる。
4. 転移が起きやすい臓器と転移がんへの対応を説明できる。
5. それぞれのがん特有の随伴症状と対症療法を説明できる。

2-2-2. 状況により修得が望ましいがん種に関する一般知識

婦人科がん、泌尿器がん、頭頸部がん、食道がん、皮膚がん、骨軟部腫瘍、小児がん、肝・胆・膵がん、胚細胞腫瘍、悪性中皮腫、脳腫瘍、甲状腺がん、原発不明がん

[疫学]

1. 好発年齢、好発部位、罹患率、死亡率、5年生存率を説明できる。
2. リスクファクターを挙げられる。
3. 検診の概要と予防方法を説明できる。

[診断]

1. 初期症状・臨床症状を説明できる。
2. 診断方法と精度を説明できる。
3. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を説明できる。
4. それぞれのがんにおける病期分類を説明できる。
5. 予後因子を挙げられる。

[治療]

1. 病期(ステージ)分類と予後、治療方針の関連性を説明できる。
2. がんの治療のアゴリズムと推奨される代表的なレジメンを説明できる。
3. 治療に用いる薬剤の作用機序、適応、投与方法、副作用とその初期症状、対処法、支持療法を説明できる。
4. 放射線治療の適応、方法、期間を説明できる。
5. 転移が起きやすい臓器と転移がんへの対応を説明できる。
6. それぞれのがん特有の随伴症状と対症療法を説明できる。

2-3. がん薬物療法に関する基礎知識

2-3-1. 抗がん薬に対する薬学的知識（物理化学的性質・薬理作用・毒性・薬物動態・薬物相互作用・PK/PD・特殊集団への投与・剤形 [ドラッグ・デリバリーシステム (DDS) を含む]・添加物・含量規格・保険診療上の留意点など）

1. 各種抗がん薬について作用機序、薬物動態、効果、副作用を説明できる。
2. 物理化学的性質と薬物動態との関係を説明できる。
3. 抗がん薬の薬物動態に関与する薬物代謝酵素、トランスポーターを説明できる。
4. 抗がん薬の相互作用(薬物、食品、嗜好品)を説明できる。
5. 経口抗がん薬に関して、食事の影響と服薬のタイミングを説明できる。

6. PK/PD の観点から用量・用法－薬物濃度－薬効・副作用の関係を説明できる。
7. 合併症を含む特殊な患者における薬物動態、薬物感受性の変化と抗がん薬を投与する際の注意点を説明できる。
8. 薬効あるいは毒性に関与する代謝酵素の遺伝子多型と人種差を説明できる。
9. 薬物投与前の遺伝子検査を実施する意義を説明できる。
10. がん治療領域の TDM を説明できる。
11. DDS 製剤を説明できる。
12. 代謝的活性化により薬効を発揮する薬剤(プロドラッグ)を挙げられる。
13. 抗がん薬による毒性軽減を目的とした投薬処置を説明できる。

2-3-2. 主要ながんに対する標準治療レジメン

1. がん種別の代表的なレジメンと位置付け(根治的治療、進行再発、術前・術後補助化学療法、局所化学療法、化学放射線療法、大量化学療法と造血幹細胞移植、免疫療法など)を説明できる。
2. 各がん種別の治療ガイドラインを理解し、適切な治療法を提案できる。
3. 臨床的根拠となる論文の概要を説明でき、エビデンスレベルの分類・評価ができる。
4. 各レジメンの投与スケジュール、休薬期間、標準投与回数を説明できる。
5. 各レジメンの中止基準、減量基準、投与量、累積投与量の規定を説明できる。
6. 複数の抗がん薬を含む併用レジメンで、投与順序と根拠を示せる。
7. 各レジメンの副作用を理解し、その対策を提案できる。

2-3-3. 支持療法の種類、根拠、方法

1. 支持療法の目的と意義、症状マネジメントの重要性を説明できる。
2. 制吐薬適正使用関連ガイドラインを理解し、活用できる。
3. 悪心嘔吐の発現機序を理解し、発現時期(急性・遅発性・予測性)や制吐剤の適正使用を説明・提案できる。
4. G-CSF 適正使用関連ガイドラインを理解し、活用できる。
5. 好中球減少時における G-CSF 使用基準とリスク分類による予防投与と治療的投与を説明できる。
6. 発熱性好中球減少症時における適切なリスクアセスメントと初期管理および抗菌薬の適正使用を説明できる。
7. 血小板減少に対する支持療法を説明できる。
8. 貧血に対する支持療法を説明できる。
9. 輸血の適応について説明できる。
10. 抗がん薬による腎障害、出血性膀胱炎を予防するための輸液負荷、利尿薬の使用、尿のアルカリ化、予防薬剤の使用を説明できる。

11. 下痢の発現機構(早発性:コリン作動性、遅発性:腸管粘膜障害)と好発薬剤について理解し、予防的措置および治療方法を説明できる。
12. 便秘に対する支持療法を説明できる。
13. 神経毒性に対する支持療法を説明できる。
14. 口内炎に対する支持療法を説明できる。
15. 皮疹に対する支持療法を説明できる。
16. 腫瘍崩壊症候群に対する支持療法を説明できる。
17. 血栓・塞栓に対する支持療法を説明できる。
18. 高血圧に対する適切な治療薬を提案できる。
19. 高カルシウム血症に対する支持療法を説明できる。
20. 低ナトリウム血症に対する支持療法を説明できる。
21. 終末期における輸液栄養管理を説明できる。
22. 精神的ケアにおける適切な薬剤を提案できる。
23. 生殖機能障害に関して理解し、説明できる。
24. 自己免疫疾患に関して理解し、説明できる。
25. 免疫関連有害事象(irAE)に対するステロイド療法を説明できる。

2-3-4. 注射用抗がん薬に関する基礎知識

1. 各種抗がん薬において承認されている適応症と用法、用量を一致させ説明できる。
2. 過敏性反応の発現頻度が高い薬剤と好発時期を説明できる。
3. 過敏性反応発現時に必要な処置を挙げられる。
4. 血管外漏出時に組織障害性の強い抗がん薬を挙げられる。
5. 抗がん薬の投与経路による特徴を説明できる。
6. 静脈内投与に伴う副作用(静脈炎、過敏性反応、血管外漏出など)の発現頻度と対処法を説明できる。
7. 抗がん薬の投与に用いる器具(輸液セットなど)と装置(輸液ポンプなど)を説明できる。

2-3-5. 抗がん薬の取り扱いと曝露防止対策

1. 注射用抗がん薬の混合調製法に関する一連の流れについて説明できる。
2. 職業的な抗がん薬による曝露のリスクを説明できる。
3. 抗がん薬による曝露の経路を説明できる。
4. 抗がん薬の適切な廃棄の必要性(ヒトへの毒性、環境への影響)を説明できる。
5. 国内外における抗がん薬の廃棄に関する法的規制およびガイドラインの状況を説明できる。
6. 抗がん薬の廃棄に関する適切な情報を医療・介護等従事者に提供できる。

7. 廃棄物の分別および処分法を医療・介護等従事者、患者とその家族に説明できる。
8. 抗がん薬の分解、無毒化の方法を列挙し説明できる。
9. 抗がん薬投与後の排泄物やリネン類などによる曝露のリスクを説明できる。
10. 抗がん薬投与後の排泄物やリネン類などの取り扱いに関する情報を患者とその家族、医療・介護等従事者に提供できる。

2-3-6. スペシャルポピュレーションに対する薬物療法

1. 腎機能低下患者における薬物動態、薬物感受性の変化と用量調節が必要となる薬剤を説明できる。
2. 肝機能低下患者における薬物動態、薬物感受性の変化と用量調節が必要となる薬剤を説明できる。
3. 高齢者における薬物動態、薬物感受性の変化と抗がん薬を投与する際の注意点を説明できる。
4. 小児における薬物動態、薬物感受性と用量を説明できる。

2-3-7. 在宅医療におけるがん薬物療法

1. 患者やその家族に副作用のセルフケア方法を説明できる。
2. 経口抗がん薬の保管方法について説明できる。

2-3-8. 特殊な管理が必要な薬剤

1. 特殊な管理が必要な薬剤(レナリドミド等に関する適正管理手順)の管理方法について説明できる。

2-4. 抗がん薬及び、支持療法薬の副作用に関する知識

悪心嘔吐、下痢、発熱性好中球減少症、味覚障害、流涙、口内炎、ざ瘡様皮疹、爪囲炎、手足症候群、末梢神経障害、ホットフラッシュ、irAE

2-4-1. 上記副作用の症状と原因、発現時期、抗がん薬による発症頻度

1. 抗がん薬の DLT を説明できる。
2. 抗がん薬の DLT 以外の主な副作用を挙げられる。
3. 副作用の初期症状、発現機序、好発時期、好発薬剤、主な CTCAE のグレード分類を説明できる。
4. 副作用の可逆性・非可逆性、蓄積毒性を説明できる。

2-4-2. 上記副作用の支持療法、治療、処置

1. 抗がん薬の副作用の対処法(予防措置・支持療法など)を説明できる

2-4-3. 上記副作用の日常生活における注意点、ケア、食事に関する注意、予防対策

1. 口腔ケアの意義と方法を説明できる。
2. 皮膚障害に対するスキンケア、履物の工夫、外用療法の意義と方法を説明できる。
3. 悪心・嘔吐に対する食事の工夫、下痢時の脱水予防について説明できる。
4. 末梢神経障害の対策のため、冷たいものへの曝露を避けるべき抗がん薬の種類を説明できる。

2-4-4. 上記副作用の早期受診すべき症状

1. CTCAE のグレード評価を活用できる。

2-5. 緩和ケアについての知識

2-5-1. 緩和ケアの考え方

1. WHO による緩和ケアの定義を説明できる。
2. 緩和ケアの目的と意義、問題点を説明できる。
3. サイコオンコロジーの概念と精神的ケアの必要性を説明できる。
4. がん治療と緩和ケアの関係性を説明できる。

2-5-2. がん性疼痛の種類と評価

1. がん患者が有する全人的苦痛(トータルペイン)を説明できる。
2. がん性疼痛の症状マネジメントと治療目標を説明できる。
3. がん性疼痛の薬物治療における5つの基本原則(WHO方式)を説明できる。
4. WHOの3段階除痛(鎮痛)ラダーを説明できる。
5. 疼痛の評価尺度であるVAS(Visual Analogue Scale)、VRS(Verbal Rating Scale)、NRS(Numeric Rating Scale)、フェイススケールを説明できる。
6. 疼痛の軽快因子・増悪因子を説明できる。
7. 疼痛のパターン(持続痛、突発痛)を説明できる。

2-5-3. 使用する薬剤とその副作用

1. 疼痛の種類、患者の状態により、適切な鎮痛薬を説明できる。
2. オピオイド製剤の種類、剤形、作用機序、薬物動態、特徴を説明できる。
3. オピオイド製剤の腎機能低下患者における薬物動態、薬物感受性の変化と用量調節が必要となる薬剤を説明できる。
4. オピオイド製剤の肝機能低下患者における薬物動態、薬物感受性の変化と用量調節が必要となる薬剤を説明できる。
5. オピオイド製剤の高齢者における薬物動態、薬物感受性の変化と抗がん薬を投与

する際の注意点を説明できる。

6. オピオイドの副作用とその対処法を説明できる。
7. オピオイドの定時使用とレスキュー薬を説明できる。
8. オピオイドスイッチング(ローテーション)と鎮痛力価換算、タイトレーションを説明できる。
9. オピオイド使用時の注意すべき相互作用を説明できる。
10. オピオイド過量投与時の徴候と対処法を説明できる。
11. 非麻薬性鎮痛薬の種類、剤形、作用機序、特徴を説明できる。
12. 鎮痛補助薬の種類、作用機序、保険適応、特徴を説明できる。
13. 薬物療法以外の疼痛治療法(放射線治療、神経ブロックなど)を説明できる。

2-5-4. 在宅患者への緩和ケア

1. 在宅ケア、ホスピスの目的と意義、問題点を説明できる。
2. 終末期医療の目的と意義、問題点を説明できる。
3. 緩和ケア・在宅ケアを提供する以下の仕組みを説明できる。
 - (1)緩和ケアチーム
 - (2)在宅緩和ケア
 - (3)がん相談支援センター
 - (4)地域連携クリティカルパス
 - (5)緩和ケア・在宅ケアにおける薬剤師の役割
 - (6)診療報酬制度、介護保険制度

2-6. がん患者のケアに関する知識

2-6-1. 妊孕性の温存

1. 妊孕性の温存について説明できる。

2-6-2. メンタルケア

1. サイコオンコロジーの定義を説明できる。
2. がん患者にみられる代表的な精神症状を挙げられる。
3. がん患者における適応障害、うつ病、せん妄の治療法を説明できる。

2-6-3. ストーマケア

1. ストーマケア及び、ストーマケアに必要な資材について説明できる。

2-6-4. アピアランスケア

1. アピアランスケアの定義、問題点を説明できる。

2-6-5. 栄養管理・食事指導

1. 経管および経静脈栄養薬交付の際の留意事項を説明できる。
2. 終末期がん患者に対する輸液治療ガイドラインを説明できる。

2-6-6. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

1. アドバンス・ケア・プランニングについて説明できる。

3. 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）に必要な技術

3-1. 経口抗がん薬の調剤

3-1-1. 管理

1. 処方とレジメンとの整合性を確認できる。
2. 処方された投与量、投与方法、投与時間を確認できる。
3. 抗がん薬投与前後の支持療法が適切に処方されていることを確認できる。
4. 抗がん薬の累積投与量を確認できる。
5. レジメンの休薬期間、予定投与コース数および投与中止規定を確認できる。
6. 注射抗がん薬との併用の有無を確認できる。
7. 抗がん薬の代謝、排泄過程の情報および臨床検査値に基づいた用量の調整を確認できる。
8. 処方薬の併用禁忌薬剤を確認できる。
9. 医薬品リスク管理計画(RMP)に基づいて管理できる。

3-1-2. 調剤

1. 抗がん薬の管理方法を説明できる。
2. 抗がん薬の管理基準を説明できる。
3. 安全管理手順を順守すべき薬剤と運用手順を説明できる。
4. 各種抗がん薬において承認されている適応症と用法、用量を一致させ説明できる。
5. 抗がん薬の調剤を行う際に必要な情報を確認できる。
6. レジメンに基づく処方内容の適切性を確認できる。
7. 抗がん薬の簡易懸濁の可否を確認できる。
8. 脱カプセルの可否を確認できる。
9. 注射用抗がん薬との併用の有無を確認できる。

3-1-3. 処方監査

1. 各種抗がん薬において承認されている適応症と用法、用量を一致させ説明できる。
2. 抗がん薬の処方監査を行う際に必要な情報を確認できる。
3. レジメンに基づく処方内容の適切性を確認できる。
4. 抗がん薬の処方監査を遂行するための支援ツール(投与管理表など)を説明できる。

3-1-4. 交付

1. 経口抗がん薬交付を実践できる。
2. 併用薬剤の有無を確認できる。
3. アレルギー歴の有無を確認できる。

4. 前回内服していた抗がん薬との休薬期間を確認できる。
5. 内服可能状況を確認できる。

3-1-5. 投与

1. 患者の服薬状況を確認できる。
2. 他の医療機関との連携に必要な情報を説明できる。
3. 患者に適切な投与方法を提案できる。

3-2. 最新の医薬品情報や臨床情報・ガイドラインなどの調査、論文の読解

1. 代表的な国内外のがん治療に関するガイドラインを挙げられる。
2. ガイドラインの推奨グレードについて説明できる。
3. がん治療に関するガイドラインを理解し、医療・介護等従事者に提供し協議できる。
4. がん治療に関するガイドラインを理解し、患者へのインフォームドコンセントを考慮し個々の患者とその家族へ情報提供できる。
5. PubMed などを用いて適切な文献情報を検索することができる。
6. がん標準治療の根拠となった臨床論文から、対象とされた患者群を理解し、適切な投与対象群を把握できる。
7. インターネットによるがん治療に関する代表的な情報サイトを利用できる。
8. 最新の医薬品情報などを評価し、患者へのインフォームドコンセントを考慮し個々の患者とその家族へ情報提供できる。
9. 臨床論文を批判的に吟味することができる。
10. 研究デザイン(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)を理解し、説明できる。
11. メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。
12. エンドポイントを説明できる。
13. 臨床論文を評価するための統計学的解析法を理解できる。
14. 臨床適用上の効果指標(オッズ比、必要治療数、相対危険度など)を説明できる。
15. エビデンスレベルを理解し、説明できる。

3-3. 患者説明

1. 抗がん薬について薬理作用、薬物動態、薬物相互作用、PK/PD、剤形(DDS を含む)、添加物などの医薬品情報の中で、患者に必要な情報を説明できる。
2. 抗がん薬について薬事承認された効能・効果、用法・用量、レジメンについて、投与量、投与スケジュール、休薬期間などを患者に説明できる。
3. 重篤度の高い副作用の好発時期、初期症状と発現した場合の対処法を患者に説明できる。

4. 特殊な服用方法(簡易懸濁法など)のある抗がん薬を理解し、患者に説明できる。
5. 食事や健康食品などと相互作用がある抗がん薬を患者に説明できる。
6. 患者説明に必要なわかりやすいパンフレットなどを活用できる。

3-4. 多職種連携

1. 緩和ケアチーム、ICT、NST などと連携し、薬剤の処方提案、効果と副作用のモニタリング、医薬品情報を提供できる。
2. 医師、看護師、介護士、介護支援専門員、栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床心理士、メディカルソーシャルワーカー、ボランティアなど他職種の役割を理解し、説明できる。
3. がん診療チーム、緩和ケアチーム、感染対策チーム(ICT)などの役割を理解し、説明できる。
4. キャンサーボード、症例検討会などの役割を理解し、説明できる。
5. 専門薬剤師の役割を説明できる。
6. 診療録、看護記録、カンファレンスなど、他のメディカル・スタッフが使用する専門用語や略語を説明できる。
7. メディカル・スタッフの一員であることを常に自覚し、礼儀、言葉づかいに気をつけて協働できる。
8. 他のメディカル・スタッフとの協働を通じて、職種間、部門間の問題に対して建設的な意見交換や対処方法の提案により、チーム医療を推進できる。

3-5. がん又はがん化学療法に随伴する臨床症状に対する支持療法の推奨

1. 患者の臨床症状を正確に把握し、がん化学療法に随伴する副作用かどうかを理解できる。
2. がん治療におけるオンコロジック・エマージェンシーの症状と治療が理解でき、適切な薬物療法について医師に提案できる。
3. がん化学療法における標準的な支持療法を理解し、医師に適切に提案できる。

3-6. がん性疼痛管理

1. 患者の疼痛状況を把握し、鎮痛薬に関する処方提案ができる。
2. 患者の状態に応じた鎮痛薬および剤形を提案できる。
3. 鎮痛薬による副作用を評価し、適切な予防および対策を提案できる。
4. 鎮痛薬の服用目的、服用方法、管理、副作用とその対策について患者に適切に説明できる。
5. 薬局における医療用麻薬の管理を説明できる。
6. 医療用麻薬の処方可能日数と薬局での管理を説明できる。

7. 医療用麻薬調剤の際の留意事項(粉碎、脱カプセルの可否など)を説明できる。
8. 在宅治療における患者自身による医療用麻薬の適正な管理を患者と家族に指導できる。

4. 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）に必要な臨床経験

研修施設において月に2回以上のがん領域の臨床症例を含むカンファレンスに参加し、必要な臨床経験を習得することが求められる。

4-1. 薬学的知見に基づくがん薬物療法の指導に関する業務

4-1-1.患者情報(基本情報、がん種、治療内容、検査値、副作用の発現状況・対応状況、アドヒアランス、民間療法の嗜好等)の収集

1. アレルギー歴、併用薬や持参薬を把握できる。
2. 蓄積毒性がある薬剤の累積投与量を確認できる。

4-1-2.患者に対する適切な服薬指導・薬剤情報提供の実践

1. 治療目的を理解し服薬指導できる。
2. 各薬剤の作用機序、それに伴う副作用とその対策を患者に説明できる。
3. 患者の症状、訴え、バイタルサインなどより、副作用のモニタリングを実践できる。
4. CTCAE に基づいて副作用を評価できる。
5. 自らが提案したことについて、患者の状態の変化をもとに評価できる。
6. 根拠に基づく副作用の対策について、医療・介護等従事者と共有できる。
7. 治療に対する患者と家族の意識、服薬アドヒアランスや副作用に関して、医療・介護等従事者と情報を共有し、チーム医療を実践できる。

4-1-3.副作用報告

1. がん患者の薬物療法における医薬品安全性情報報告を実践できる。